

第38回全道造形教育研究大会
第25回全空知子ども作品を語る会

滝川大会



'88

第38回全道造形教育研究大会
滝川大会
第25回全空知子どもの作品を語る会

大会シンボルマーク



ようこそ滝川大会へ！

ごあいさつ

造形活動にわれを忘れ、ひたむきにうちこむ子どもの目はきらきらと輝き、私達を感動させます。子どもの真の幸福はここにある。子どもはそれを望んでいると思います。

この度の大会で、私達自身も造形の楽しさを味わい、作品を語る会ではやさしいことばで実践を語りあいたいと考えています。

皆様をお迎えする私達も、大会テーマの通りただひたすらに考え、いっしょうけんめい準備しました。うまくはいきませんが、その努力の跡だけでもご覧ください。

夏まっさかりの時期に、皆様の熱い実践が開花し、私達にも様々な方向を与えてくださいますようご参加を心からお待ちしています。

全道造形教育連盟委員長 松島 輝 男
滝川大会運営委員長 早 弓 弘 行



「希望と輝進」 作 鈴木吉郎

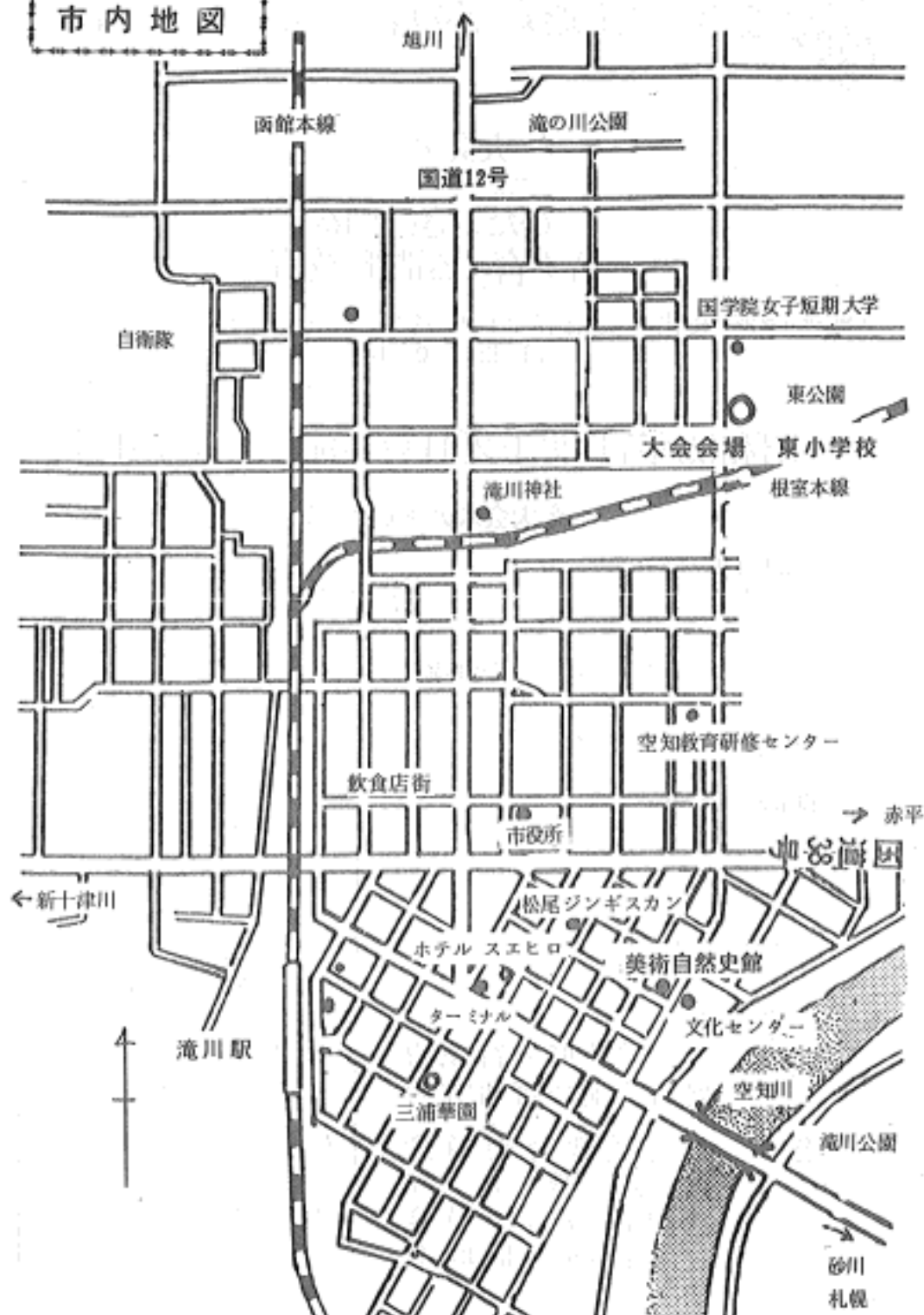
目 次

大会シンボルマーク

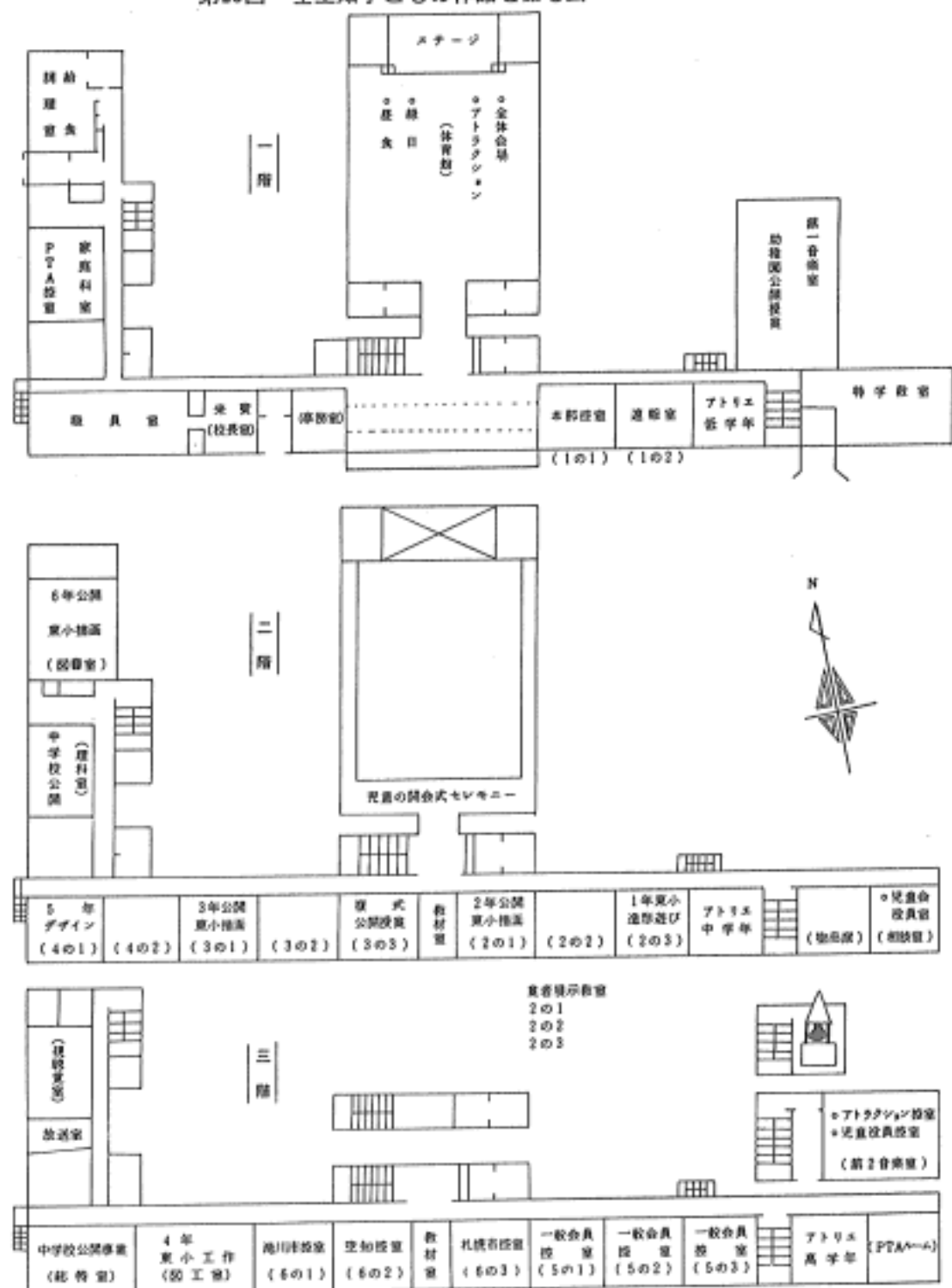
ようこそ 滝川大会へ!!

市内地図	1
第38回全道教育研究大会滝川大会 <日 程>	2
<会場案内図>	3
ご挨拶 北海道造形教育連盟委員長 松島輝男	4
ご挨拶 第38回全道造形教育研究大会 早弓弘行	5
滝川大会運営委員長	
祝辞 北海道教育庁空知教育局長 奈良由夫	6
祝辞 滝川市長 吉岡清栄	7
祝辞 滝川市教育委員会教育長 本間茂	8
記念講演 講師紹介	9
滝川市美術自然史館案内 「岩橋 英遠展」	10
昭和63年研究主題「子どもの心をゆりうごかす造形教育」 金井秀男	11
滝川大会テーマ I・II	13
「全空知子どもの作品を語る会」の歩み<ダイジェスト 1~15回>	17
写真で綴る語る会の歩み <第15回大会以降>	19
実践記録・1 「見る目を育てるクローキヤ」 青竹栄子	39
・2 「テーマをもって取り組みを」 高橋秀明	40
・3 「家 紋」 田家靖久	41
・4 「野焼きに挑戦」 川村恒夫	42
緑日の案内	43
全道造形教育研究大会の開催地と研究主題一覧	44
『空美研O・Bのページ』 「空美の魅力」 徳梅英次郎	45
一ノ戸信雄	46
大会役員(PTA)	47

市内地図



第38回 全道造形教育研究大会
 第25回 全空知子どもの作品を語る会 会場案内図



ご挨拶



北海道造形教育連盟

委員長 松島 輝 男

国を挙げての教育改革の論争も一段落し、それぞれの立場での具体的方途内容は如何にあるべきかの段階に入りました。教育現場では、多様な教育実践を積み重ねてより良いものを見出していく、そんな時代を迎えました。当然の事ではありますが一層大きな期待を寄せられている時であろうと思います。この時にあたり、第38回北海道造形教育研究大会滝川大会の開催を迎えることは誠に意義の深いものがあります。

大会開催にあたりましては、北海道教育委員会、同空知教育局、滝川市、同教育委員会、同教育振興会はじめ大の方々のご支援を戴きましたことを厚くお礼申し上げます。

空知における造形教育研究大会開催は、昭和36年、滝川第一小学校での第11回大会、昭和51年の岩見沢小学校での第26回大会を経て三回目の開催であろうかと思えます。それぞれ大会の歴史に残る盛會が記録されています。

第11回滝川大会では「子どもたちの芸術性を高めるために 私たちは いま何をあたえ 何をしなくてはならないのか」のスローガンを掲げ、メーン講師に植村鷹千代氏を招き、公開授業、パネルディスカッション、父母と新会員の部を含む分科会など、中味の濃い、そして盛果の華々しい大会でありました。

また、第26回岩見沢大会は、猛暑の中の2日間でしたが、第13回空知子どもの作品を語る会との併催で「すべての子どもに造形のよろこび」を主題に、文字通り熱気のこもった内容でありました。熊本高工氏の講師で、授業も実験授業と打ち出し、分科会、ディスカッションの他に特筆すべきは、作品を語る集い、実技コーナーなど、空知ならではのユニークな試みも大会参加者を大いに喜ばせ、得るもの大きな大会でありました。

これ等の大会の盛會をもたらしたものは言うまでもなく、空知美術教育研究会の会員の卓越した美術教育観と、絶えざる実践とチームワークのすばらしさにあるといえましょう。当連盟が、図画工作研究会から北海道造形教育連盟と改称したその第1回の総会における研究発表が、当時滝川一小にあった金井秀男氏の「造形教育の感動源の追求。」であったことから、永く空美研が本道の美術教育をリードする位置にあったことを示す一例であり、私も度々、作品を語る会に参加させていただき、そのエネルギーにいつも感動をうけて参りました。

かって産炭地としての産業王国が大きな転換を迎えている中での、空知教育のありよりは、と厳しく問われている時だけに、当地でのこの大会の成果を大いに期待するところであります。ご参加の皆様も一層盛會への気運を盛り上げていただくようよろしくお願い申し上げます。

ひたむき大会へのご参加に感謝



第38回全道造形教育研究大会

滝川大会運営委員長 早 弓 弘 行

夏まっさかりの滝川市へ、全道各地からご参会頂きましてありがとうございます。この度の大会は、空知美術教育研究会の事業として行われる「空知子どもの作品を語る会」の第25回大会とあわせて開催することになりました。大会の開催を決意してから1年間、北海道造形連盟の諸先輩、空知教育局、滝川市並びに教育委員会のご指導のもとに、空美研と滝川東小学校が協力して準備をすすめて参りました。開催に至るまで様々の不安もありましたが、滝川幼稚園をはじめ市内の幼保関係・市内各校・並びに本校PTAのご理解とご援助・関係各位の激励やご支援に頼りながら、徐々に機運を高めて参りました。

会場校の東小学校は全くの素人集団であります。デッサンとクロッキーの区別もつかず、描画材の性質や扱いも不慣れの状態から出発して、ただひたすらに基礎・基本を学び、それが私達のかわいい子どもにかえることのみ念じつつ研修を重ねて参りました。したがって、世に問うほどの内容はもちません。ただひとつ言えることは、大会テーマにも掲げましたように、教師も子どももひたむきに打ちこめば、私達や子どもの将来にとって、とても大切な能力や感性を高めることができるという確信を得たことでございます。同時に造形教育が、子どもの人間形成にどれほど大きく深く関わっているのかを実感できたことでございます。

いまの私達にできることは、まず私達自身が造形活動を楽しみたいと思い、それを子ども達に伝えることではないかと考えています。子どもの意欲を刺激して生きる力を与え、学校の活力を高めることができれば、この1年有半の苦勞も吹きとぶのではないかと思います。

いまやっと、私達の職員室は、混色と重色の違いがわかりかけてきました。「心をこめて見る」とは方法的にどんなことなのかはほんやりと見えてきました。造形活動はおもしろいと、活動に我を忘れる子どももふえてきました。空美100名の会員は、学校に援助しつつ新しい方途を模索しています。

大会の開催にあより、すでに教育の第一線を退かれました大先輩にまで実技研のご指導をお願いし、さらに全道各地の実践家の諸先生には、提言やらガイドなどを快よくお引受けいただきました。厚く御礼申しあげ、今後ともご指導くださいますようお願い申しあげます。

この大会を契機として、空美研も会場校の滝川東小学校もともどもに研究を深め、子どもの本当の幸せを求めて努力して参ります。ありがとうございました。

祝 辞



北海道教育庁空知教育局長

奈良 由 夫

第38回全道造形教育研究大会が、チャッチャんの郷里滝川市において盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げますとともに、日ごろ造形教育に熱心に取り組まれております全道の先生方を多数お迎えいたしましたことに対し、心より歓迎申し上げます。

全道造形教育連盟は、これまで38回の長きにわたって毎年研究大会を開催し、会員相互の研さんを深め合うなかで、北海道の造形教育の振興に大きく貢献されておりますことに対しまして深く敬意を表します。

さて、今日の社会の状況を見ますとき、科学技術の発達には物質的な豊かさを生み出した反面、心のまずしさが指摘されるなど、児童生徒の生活や意識の面に大きな影響をもたらしております。

したがって、これからの学校教育においては、国民として必要とされる基礎的・基本的な内容を重視し、個性を生かすとともに、豊かな心を持ち、たくましく生きる児童生徒を育成することが強く求められております。

児童生徒が、これからの時代を心豊かに、たくましく生きぬくためには、地域の特性や四季に応じた自然の中での体験を積極的に取り入れ、自ら創造する喜び、美しいものを美しいと感じることのできる感性、人と人との触れ合いから、他を思いやる心などを培うとともに、今後ますます変化が予想される社会に主体的に対応し、生涯にわたって学び続ける意欲の育成が重要な課題であります。

なかでも、造形教育においては、第二の頭脳といわれる手先を十分に使って、心に内在する様々なアイディアや構想などを豊かに伸び伸びと表出させ、表現活動の喜びを味わわせるとともに造形作品の価値や美しさを感じ取らせるなど、一人一人の児童生徒に豊かな情操を育てていくことが重要であり、その指導に直接携わる諸先生方に対する期待は、極めて大きいものがあります。

全道各地で活躍されている幼稚園、小学校、中学校、高等学校の先生方が一堂に会して、変化の激しい社会の中における教育の在り方を正しく見定めながら、「ひたむきに創る心を育てる造形教育」を大会テーマとして、研究協議を深められますことは、誠に時宜を得たものであり、大会の成果が広く全道の造形教育の充実発展に寄与されますことに、大きな期待を寄せるものであります。

おわりに、本研究大会が関係者の期待に応える充実したものとなりますことと、あわせて空知管内の今後の研究の在り方にも確かな方向性を与えてくださいますよう、ご祈念申し上げまして祝辞といたします。

祝 辞



滝川市長 吉岡 清 栄

本日地方小都市の滝川において、第28回全通造形教育研究大会が開催され、日頃教育の第一線で児童生徒の豊かな成長を願い、知・徳・体とバランスの整った教育を進める中で、特に情緒豊かな人間形成を目指して、専門の造形美術の教育実践に専らな諸先生をお迎えすることは、当市としても大変嬉しいことで、改めて衷心から歓迎を申しあげるとともに、日頃のご精進とご努力に敬意と謝意を表する次第であります。

さて近時厳しい内外情勢の中において、世界の経済発展の過程で生じた日本の立場、即ち国際平和の問題、貿易自由化促進のこと、国内における世界経済と貿易収支の課題、内需拡大予算と、減税から新税創設の問題、さらには行革問題等々が山積し、そして教育も又例外でない動向があります。

われわれは冷静にこうしたことに視点を向け、将来禍根を残さない教育が進められることを念じております。こうした時代の流れを背景として昨今耳にすることは、戦後虚脱の中から立ち上がり、素晴らしい発展を続けたわが国ではありますが、物満ちて溢れかえり心の欠如が見受けられるという言葉であり、日々の報道は、それを明らかに是認するような記事に溢れているのであります。私は、ここに造形美術の教育が求められる所似が存じます。

創造する喜び、観賞する喜びに加えて評価と批判、それらを通して自ら創造する努力、美しくも情緒性豊かな人間形成に連なる今日の教育に欠かせないことだと思ふべき次第であります。

折角遠路ご来市を賜わりまして開かれたこのたびの催しが、有意義にして得難い大会として終始されることを祈念します。

市制施行30周年、開基98年の滝川市は、これからの飛躍発展を期して、市民総力を挙げて努力中であり、ご参会のみなさんの直接間接のご協力をお願いして、重ねてみなさんのご健勝、ご発展とこの大会の成功を念じて、祝辞とします。

祝 辞



滝川市教育委員会教育長

本 間 茂

本日ここに、第38回全道造形教育研究大会滝川大会、第25回全空知子どもの作品を語る会、を開催するにあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

全道各地より来市されました多数の幼、小、中、高の先生方及び美術教育を寄せるみなさんを心より歓迎いたします。この度の研究会場になりました滝川市立東小学校は創立10年目をむかえたばかりのまだ若い学校であります。この間、恵まれた自然環境や父母の協力のもとに教育活動を次々と展開し、多くの成果を上げております。その一つに造形教育があります。教師側には専門家はおりませんが、全員が学ぶ姿勢を示し、その成果は除々に子どもの作品や生活に浸透してきております。本日を機会に関係者のご指導ご鞭撻をいただければ、さらに前進するものと期待しております。

さて、子どもたちは本来的には創造力、好奇心、発想力、直観力などを多く持っているといわれております。この力こそ、図工教育で大切にされております創造的活動を可能にする源泉といえます。ところが、我が国の教育現場においては、伝統的に教えこみの傾向が強く、その結果、知的能力に焦点をあて「頭のよい人間」をより重視するという考え方が続いてきました。今日、子どもたちの個性をより大切にする主張が強くなると、豊かな発想や創造性に関する思考過程である拡散的思考の育成が注目されてきております。その対策の一つとして、本明寛早大教授は、①「見るより、感じる」 — 強い感受性 — ②「言語思考よりイメージ思考」 — 言語で説明できない表現を — ③「集中より拡散」 — ひらめきをよぶ — をあげ、創造性を高める手だてとして具体化の必要性を説いております。これらの営みを行うには、教師の意識の変革が重視されなければなりません。また、今回の教育界の課題であります子どもたちの個性伸長の考え方を実現する大きな鍵を握っているといっても過言ではありません。

今回の研究会開催に際して関係者各位の努力に対し感謝するとともに、会場校の教職員や子どもたち、市全体の教育向上のため寄与いただくことを期待するものであります。貴研究会の増々の発展をお祈りし、お祝いの言葉といたします。

〈記念講演〉



文化と美術

全道展・国画会会員

国松登氏

略歴（1907年）

- 明治40年5月6日 函館市生れ
- 1931年 帝国美術学校（現武蔵野美大）西洋画科に入学。来道した三岸好太郎に魅せられ師事する。
- 1933年 北海道独立美術作家協会設立。設立メンバーには小山昇、楳木茂、小川マリ、菊地精二などがある。
- 1937年 道展会員。越後良子さんと結婚。
- 1938年 三岸好太郎没後、国画会展に転ずる。長女さららさん誕生。
- 1940年 国画会賞。文部省美術展入選
- 1941年 次女こぬれさん誕生。
- 1942年 国画会岡田賞。会員に推挙される
- 1947年 長男明日香君誕生。
- 1949年 東京フォーラム画廊個展。この頃より「眼のない魚」の制作はじまる。
- 1956年 「眼のない魚」から、「流水」に魅せられ取材をつづける。
- 1959年 北海道文化賞受賞。
- 1961年～62年 アメリカ・メキシコ・ヨーロッパ各地遊学。
- 1978年 札幌市民芸術賞受賞。
- 1979年 秋の叙勲で、勲五等瑞宝賞を受ける。

〈滝川市美術自然史館ご案内〉

滝川市市制施行30周年記念

院 展 の 重 鎮

勳四等旭日小授章 受章

日本芸術院会員
滝川市名誉市民

岩 橋 英 遠 展



- 岩橋英遠画伯 滝川市出身の日本画家、明治36年屯田兵の家に生まれる。日本画壇の重鎮として活躍中。東京芸術大学名誉教授。
- 出品の内容 個展のテーマ「富士を巡る——'88」山と雲など春夏秋冬の富士、雲など新作17点と、ふるさと初公開「道産子追憶之巻」
- 期 間 昭和63年7月19日(火)～28日(休)全道造形教育研究大会の初日が、展示会の最終日ですので、ぜひごらんください。
- 場 所 滝川市美術自然史館
- そ の 他 7月28日、大会終了後無料バスで会場までお送りします。

滝川市美術自然史館と、その周辺

美術自然史館は、美術と自然史を合体させたユニークな博物館です。本市ゆかりの日本画家・岩橋英遠、洋画家・一木万寿三、書家・上田桑鳩の常設展示室と、ゆったりとした企画展示室からなる美術部門。

さらにタキカワカイギュウをはじめ、世界の三大海牛やティラノサウルス、マンモスなどの骨格標本がずらりと並び、太古の世界へ誘う自然史部門があります。

さらに周辺には、郷土館や北海道では珍しい航空科学館などがあります。

子どもの心をゆりうごかす造形教育

北海道造形教育連盟

研究部長 金井秀男

(札幌市立平和小学校長)

1. これからの教育への指標「心をゆりうごかす」ということについて

21世紀に向けて教育界は大きく動いています。随教審の答申が、ひろい心・すこやかな体・ゆたかな創造力・自由自律と公共の精神・世界の中の日本人を重要な指標としてあげています。答申はひとつの提案ではありますが、無視することのできないものを含んでいます。それをうけて多くの施策や学習の内容が論じられることでありましようが、教育の根幹の人間を育てることの中で、造形教育の役割りを自覚することが、今日なによりも大切なことです。

子どもたちが形を拮える力、形を表わそうとする力をより高くすることは、子どもの生活そのものをより充実していくための営みであります。この「かたち」とは何かを明らかにしていくため学習活動が造形という活動なのです。

ものの姿、ものの形は、私たちの心を動かします。私たちはものの姿をよく見、そのかたちの動きの中から、その動きを支配しているものの本質にちかづくのです。それは子ども自身の心がゆりうごかされなければ、決して出会うことのできないことです。ものの心を知る、ものをいつくしむ、ものとともに生きる心は、人間そのものにおきかえることを

通してはじめて、可能なのであります。このことは21世紀に向けて指標する教育像の根幹であることを自覚しなければなりません。

このような構えを持って、教育を考えていく人たちをふやし、子どもの表現を支え、はげまし、発展させることが、今日造形教育にかかわるものの大きな務めでなければなりません。

2. 材料との豊かな出会い

造形教育の主題は人間の教育であります。それは材料とのかかわりの中で行なわれる営みでありけす。子どもの手は勿論のこと、身体全体で「もの」に挑む学習が重要視されることは当然なことです。

材料との豊かな体験から、材料の操作への長期の継続的な学習が開拓されなくてはなりません。そのことは子どもたちに体で考えるという姿勢をつくりだすことであり、本物の知恵を磨くことでもあるのです。

このことは、当然次のような活動へと発展しなければなりません。

- 人間は全て自然に組み込まれて生活していることを基盤に据えて、自然を生かす造形活動を積極的に推進させることです。
- 子どもの成長発達過程を生理学的、文化人類学的にとらえ、伸縮性・柔軟性のあ

るカリキュラムをつくりだすことです。

- 人間がどのようにして物をつくりだしてきたか。道具をどのようにして生まれてきたか。といった人間や自然や科学や技術をひとまとめにした学習内容を構築していくことです。
- 表現をひろくとらえ、そこからまた造形の仕事を考えてみるような学習などを開発していく中で、造形の意味にふれる活動の実践が求められます。

3. 生活を見つめる仕事—造形の生活化—

映像の時代に入ってから、子どもの表情や身振りを大きく変えた。言葉や文字と並んで映像の力は、子どもばかりでなく教育全体もあわただしく、めまぐるしく、むやみに忙しさを増してきた。言葉そのものも落ちつきを失った。

映像が心に浮び、心に受け入れられ、その姿やおもむきが捉えられるとき、私たちの心は、あわただしさよりも、さわだった落ち着きを得ます。造形美術に打ち込んだ先人は心を清め、心を澄まして、物を見、視界から去ってゆく様々な映像を永遠なものへと形に定着したものであった。物を見つめる眼が常に新しく美しかった。

このような真摯な態度こそが造形教育の人間像のモデルでなければなりません。

このことは、次から次へと新しい教材をデパートの陳列棚の商品のように、子どもの前に提供する指導から、子どもの生活そのものをじっくりと見つめ直す仕事価値あるものとなりました。

つまり、かき方、かかせ方に傾斜した指導から、子どもの心の内面にむかう教育が求め

られはじめたということです。

このことは、やり方、しかたといった表現の技術の指導から、子どもの感情の問題である教られないもので育てていかななくてはならないものへと、教育の態度が変化しはじめたことを意味します。

日常生活を「心を通して見る」「心を通して触れる」「心を通して聞く」といった人間の感覚の全てを通して感じる「感性」を育ててはならないのです。

そこで、私だけは、このような方向をもった指導をつくりあげるために次のことに心をおいて、実践を重ねることが必要となりました。

- 新鮮な目で、自分の行動体験や生活を見直す態度を育てておくこと。
- 好奇心をもって、物を探索する感覚と思考をもった子を育てておくこと。
- 自分の記号をもって表現することのできる自信を、ひとりひとりの子どもに育てておくこと。
- 子どもたちが生活のなかに反応を示し、どのようなことに愛情や関心をもっているかを、よく知っておくこと。
- 子どもが発見した喜びや気づいた喜びを新鮮な感覚でうけとめ共感すること。
- 暮らしの中で問題をみつけ、それをみんなで追求していくエネルギーをもつ学級をつくること。

子どもたちが、「生活をうたいあげる」とき、はじめて子どもの心がゆりうごかされるのであります。「美術の教育」「美術による教育」の二面性を正しく理解し、これからの造形教育の方向をさぐっていく時点として、今日の教育を見直していきましょう。

「生き方と描き方を育てる描画指導をめざして」

滝川市立東小学校

1. 研究会を引き受けるまで

図工科の全道研究会会場校の話があったのは、昭和61年度も始まってすぐの頃であった。本校に会場校の話がきたのは、その年から現在の早弓弘行校長に代わったことが機縁している。校長は「空知美術研究会」の会長もしているので、空知で引き受ける研究会を本校にとなったわけである。本校では全道規模の研究会は開催したことがないし、また図工の研究に取り組んだことも無いので、会場校を引き受けるのはちゅうちょした。しかし、最終的には、研究を引き受けて実践をすることは、子供達のためになると判断をしたからである。

図工の指導に特別な実績があるわけでもないし、図工の指導に明るい教師が居るわけでもない。校長を除いたら全くの素人集団である。その素人集団が自らも学びながら子供達を育てていこうというわけである。苦しい、辛い、わからないだらけの研究だったが、少しずつ血となり、肉となってきているのではないかと思っている。

2. 研究の取り組み

(1) 取り組み

① 研究主題 「豊かな表現力を育てる指導法の工夫」

(61年度から5か年計画)

② 昭和62年度(計画期)

「図工科(描画)を通して、豊かな表現力を育てる指導法の工夫」

○基礎的、基本的事項の研修と実態の把握

- ・基礎的、基本的事項の研修(描画) ・実態の把握 ・授業を通しての実践、検証
- ・指導計画(図工科の描画)の改善 ・素描(デッサン)、構図、色の指導計画

③ 昭和63年度(実践展開期)

「図工科(描画)の指導様式、指導の手だての解明と実践」

- ・授業研究の視点、方法の確立 ・個に応じた指導のあり方 ・豊かな表現、豊かな作品
- ・素描(デッサン)、構図、色の指導の実践

※ 昭和64年度以降の計画は省略

(2) 理論研究

① 校長のワンポイント指導

研究期間が短いので、校長から絵画指導の要点の指導を受けた。62年度約1年間かけて100枚のプリントが出された。(校長のワンポイント集が本になりました。絵画指導のワンポイント「絵はともだち」がそれです)

私たちの実践に合わせて、要を得た指導を受けることができた。内容は多岐にわたる。絵のめざすところ、というむずかしい指導もあったが、主に技術面の指導が多かった。
・構図、特に遠近の指導 ・人物素描の指導、用具の使い方 ・物語の絵の指導 ・色の指導 etc 一つひとつ基礎、基本をふまえた指導だったので、私たちの実践にすぐ役立たせることができた。

(3) 実技研修

① 実技研修講座

理論を学習すると同時に、耳から学ぶだけではなく、先生方自身がデッサンをしたり、色をつくってみたり、ぬってみたりした。主な講座の内容は

4月 子どものつまずき 5月 絵は子どもの心をのぞく窓

6月 どんな子でも絵はかける 8月 写生会を成功させよう

10月 子どもの絵をこんなふうに見ていこう

11月 子どもの意欲をわき立たせる授業

1月 明日へつなげよう

② 素描指導

私たちは、物をよく見てかく、見た通りにかく訓練のために素描指導に力を入れた。素描の内容は ・人物 ・器物、物、自然の二つで、指導は、校長がかいた「素描題材集 ・生き方と描き方を教える素描」を使った。子供たちの実践をまとめたものが、素描作品集「彩 AYA」である。(素描指導の考え方は、ワンポイント集の37～39に記述)

(4) 授業研究

理論研究、実技研修を土台にして、授業研究に取り組んだ。62年度と63年度7月までに五期の授業研究を組んだ。

第Ⅰ期授業研究 (素描指導を重点に) 第Ⅱ期授業研究 (彩色指導を重点に)

第Ⅲ期授業研究 (素描指導に関する重点課題の解決)

第Ⅳ期授業研究 (彩色に関する重点課題の解決)

第Ⅴ期授業研究 (公開学級を中心とした授業実践)

低・中・高と3つのブロックを中心に、全学級が授業の公開をし、実践を高めていった。

第Ⅲ期までの授業研究が終わった現在、今までに残されている問題を整理して第Ⅳ期の実践課題として整理し、その解決に努めていく。

3. 終わりに

紙面の関係で、私たちの研究のほんの一部しか記述することができなかった。お許しいただきたい。私たちのつたない研究を冊子にまとめる予定である。一読され、ご批評下されば幸甚である。

ひたむきに追求する子を育てる造形教育

空知美術教育研究会研究部

1. 大会テーマについて

お母さんに声をかけられても気がつかぬほど、物をつくったり、絵を描いたりすることに、子どもが没入できる時代があった。

大人の侵し難い「子どもの世界」が保障されている時代があった。保障というよりは、大人が忙しすぎて、子どもにかまっていられなかったという方が正しいのかもしれないが……とにかく、そんな時代はあった。いま、自分の全エネルギーを集中できない子どもたちが溢れている。

興味を誘うことが多すぎる。価値観がしじゅう変わる。社会全体が非常な速さで走っている。大きく速い流れの中で右往左往して、自分を見失っていくのは、子どもだけではない。大人も、子どもも、その速さに遅れまい、奔流に流されまいといっしょうけんめい駆けている。

子どもに時間を返してやりたい。自分の力のありったけを投入させて、授業の終わりにすがすがしい空気の流れる教室にしてやりたい。親は子どもの泥んこ遊びを復活させてほしい。無意味な遊びに見える造形経験が子どもの成長にどれほどの糧となるかを理解していただきたい。

そんなことをみんなで考え、行動する大会でありたい。

早弓空美研会長のこの一文に大会テーマの全てが語りつくされているが、私共大会役員がどの程度理解できたかを述べて、私

の文責を果たしたい。

2. 社会の変化と子どもの絵

21世紀を目前に、世の流れは一段と激しさを増し、大きく時代が変わりつつある。国際化、情報化が進み、科学技術の進歩は全てのことをスイッチ一つでできる便利さと、ヤカイにふり回される過密ダイヤの日常生活に追いつく。

就中、情報化の雄 テレビはカラー化によって一層その説得力を強化し、絵そら事と現実の区別をさらにあいまいにした。テレビドラマの終わりには必ず「この物語は架空の物語で……………」とただし書きができるにもかかわらず、「おしん」に感動した時の大臣がその役者を表彰する現実がある。

現代文化の特色、軽、薄、短、小や、冷えた人情等の条件は、例外なく子どもに直撃し、さらに、重苦しい受験体制や一見平穏無事の暮らしと子どもの困難克服の努力を奪う大人の過保護な養育態度と相まって、増々活力を失い、シラけていく。しかもこうした、現実の新しい時代を、子どもたちは拒否できない。

私たち教師は最近の世相のマイナス面ばかり見ないで、これらの条件を積極的に乗りこえ、逆に利用していく力を育てなくてはならないと考える。図工、美術の原点を再確認し、新しい時代を創造的に生きていく子どもを育てることがそれである。

3. 指導が子どもの生活に合っているか

子どもの絵は、子どもの生活の一部である。子どもの個性や創造性を伸ばさせるには、子どもの実験が見え、子どもからの情報を正しく受け入れる。つまり一人ひとりの心を感じとる教師の広い視野と豊かで柔軟な心を身につけるべく精進、努力しているプロセスが必至である。教育論は人生論の一部である（和田重正）の所論は、いかに生くべきかという主題のもとに生かされて、生きる者同志としての感動と謝念、そして巡り合いの「えにし」を胸にきざむことを、ふくみとっている。子ども一人ひとりに生得している「成長可能性」への信頼と期待と教師自身のあり方をも絶えず問い続けていく。相互成長的、発展的な学習を用意したいものである。

4. 個性の尊重と基礎の指導

図工の時間に、全て子どもに任せてしまうと、非常におもしろい多様な作品ができる。しかし反面、どうしようもない作品もできる。この作品の子どもは、この時間は苦痛で苦痛でしょうがないと感じているのではないか。この子をそのままはおっておくのでは教育は存在しない。能力の低い子どももそれ相応の作品を描きたい願望もっているわけで、そのためには、発達段階に応じた基礎、基本を指導しなければならないと考える。

ねらいは同じでも、子どもによって取りくみ方が一人ひとり異なり、それぞれが自分なりの方法で努力し克服して、他人の方法を理解し、能動的に自分なりのものが身につけられるような学習を設定し、学ぶことによってさらに意欲が高まるよう配慮す

ることが重要である。

5. 描く願望をもたせる指導を

子どもが生来もっている表現意欲だけ頼りにしては長続きしない。観察表現等、新しい創意を発見する等の手だてを構じて、表現願望にみがきをかけ「美意識の涵養」を図らなければならない。「子どもの願望」はその子どもの生活経験に負うところが大きい。子どもの全生活を通じて「よい願望をもたせる指導」も必要になってくる。

発想から構想・計画が成立するためにはそれをできる技能が必要であり、制作の過程も重要な学習である。又、作品が完成したら、それを見てくれる人がいるという喜びを具体的に味わうことのできる学習もほしい。鑑賞教育の必要性を言われて久しいが、要は如何に作品を大切に扱うかであろう。作品を大切にすることは、その作者を大事にすることである。

6. 図工、美術の指導は

子ども達をとりまく環境はどう変わっても子どもの感動から生まれる作品が本物であることにまちがいはない。

子どもは学校に来るのがあたり前と考えるか、教師が自分の魅力で迎えると考えるのでは、雲泥の差がある。

子どもたちと共に学び、表現の喜びを味わい、時には子どもを助け、励まし、完成の喜びを共に語る「共学」の姿勢をとり得る鍵は教師にある。私自身の反省を含め、ひたむきに追求する子どもを育てるには、まず、教師自身のひたむきさが求められるはずである。

＝語る会24回大会までのあゆみ＝

空知子どもの作品を語る会

あしあと

◎むすび合い、みがき合っていく
空知のなかま

－誕生の記－

39年の春、全空知美術サークルの中心になって活躍をしていた、山本栄蔵氏（北サークル委員長）、一ノ戸信雄氏（中サークル委員長）、本田哲也氏（南サークル委員長）の三人が、滝川市に集まり、空知三地区図工、美術サークルの三役会議を待っ おりに、だれともなくつぶやいた一言が、この会を誕生させるきっかけとなった。

第1回 S39年「語る会誕生」 11月 日 栗沢小学校

●南空知図工、美術サークル委員長本田氏と、同副委員長三浦恭三氏により、理論だけでなく、「本当に子供を語るような素朴で直接的な話し合い」を望み、39年秋、第1回「全空知子供の作品を語る会」を誕生させた。その時参加した200余名の情熱により、「むすび合い、みがき合っていく空知の美術教師なかま」を原点とし、各地に持ち帰り、全空知に偉大なエネルギーをそそいだ。

第2回「語る会」S40・11・10 滝川第一小学校
「百人の一步前進、みんなの百歩前進」を合い言葉に5月まじめ、中空知図工サークル結成、森谷一委員長を中心とし、八名の委員、各支部サークル委員長が10数回の会合を重ね、第二回大会を滝川にさかせた。一千点近い作品の山に囲まれ、もう幾年も以前からの知己同志の話題のように気どらず、えらぶらず熱心に作品とにらみ合い、語り合うさまは、美術教師ならではの風変わったエネルギーを感じさせたようです。

第3回「語る会」S41・9・22 深川小学校
「創造は子供たちの自由と独立への歩み出しー」

をテーマに山本栄蔵氏、田村幸夫氏と言う北空知二大柱にささえられ、事務局田家靖久氏を中心に「参加者が自由に歩き回り、自由に発言し、楽しい中にも何かをつかんで帰ってもらおう」。こんな心あたま意気込みで、北空知各委員長とがっちりスクラムを組んだ。作品の外、各実技コーナーが、お祭りの出店のごとく並び、実に盛会に終わった。

第4回「語る会」S42・10・23 北村中央小学校
「立体表現」に焦点をしばり、「材料経過を通して立体表現によって子供の造形力を鼓舞していこう」をテーマに、会場狭しと作品をならべた。

南各地区関係の諸氏、石崎、本田、島垣（故）佐久間、倉岡、堀、三浦、中谷、松山、南、そして今は亡き金子忠昌事務局長により、石狩原野のど真中、空知唯一の村「北」でその力量を示した。

第5回「語る会」S43・10・14 戸別小学校
はじめて「共同制作」を取り上げ「その授業のかまえと指導過程」をテーマに、作品をうめつくし、ペニヤ10枚組の描画や一人で動かせない立体作品など体育館狭しとおかれ参加者を圧倒させた。
戸別サークルを中心に中空知34名のメンバーが27回におよぶ会合の結果から生れたエネルギー。特に故藤原事務局長のねばり強さと指導力で盛会に終わった。

第6回「語る会」S44・9・22 納内小学校
「上手に絵を描かなくともよい、元気に描く子供にしたい」なんでも工夫し、自分でやれる「元気な作品」をテーマに本当の子供らしい絵を見い出す。理論より子供の生活を大切にする真実にふれたような気が……。田村幸夫事務局長を中心に、田家、川越、渡辺（信一）渡辺（貞之）水谷諸氏が骨をおし、元気な活躍をしていたのが印象的。

第7回「語る会」S45・9・3 美瑛市民会館
「あなたが主役」の研究会を。と呼びかけ「創造する空知の子供……」をテーマにバイタリティに溢れた行動派、和田電郎事務局長、早弓

氏、青山氏を中心に活躍していた。又絵の病院を開設し、本田、森谷両氏がこれに当った。快晴の空に手作りの「空美の旗」が目によきついていた。

第8回「語る会」S46. 9. 14 岩見沢市民会館
テーマ「感動を表現する子供たち」

生き生きとした造形活動をさせるため感動の引き出しに留意し、問題点を深く掘り下げ、悩みや、解決の方向をみつけ出していた。事務局長塚本貞男氏のめん密な計画の推進。中谷、宮川玉木、石崎と逸材ぞろいのスタッフである。

第9回「語る会」S47. 9. 20 栗山小学校

テーマ「子どもの創造力を高め、生き生きとした表現をさせる指導課程」を公開授業を持ち込んで証明（研究）した。空美研副会長の中里馨氏を中心に、事務局長の藤井氏、本間、佐藤、長谷諸氏の力添えがあり、雨にも負けず集った空美の仲間を満足させた。

第10回「語る会」S48. 9. 20 滝川福祉会館

テーマ「心をゆきぶり喜びと意欲に満ちたとりくみを求めて 豊かな心情にあふれた表現そして「子供たちの可能性を信じよう。豊かな心情を育くもう。すべて私たちのねがいのだから……」。この言葉が心にきざまれた。作品と写真の比較研究やパネルディスカッションを取り入れた道川順也事務局長を中心に、田家山本、川村、堀越、照井諸氏のスタッフ。

第11回「語る会」S49. 9. 25 雨竜中学校

描写指導「学年段階に即応した表現活動を求めて」10回を一つのピリオドとし、「原点に帰れ」を合い言葉に、ヒッソリと描画だけにしぼった話し合いが、かえて深まり、日常的にさせた。他地区にない北空知全域にまたがる学芸連美術部の仲間と田村幸夫事務局長を中心に前二回の経験者がせい揃い。心ゆくまで語り合った。

第12回「語る会」S50. 9. 30 由仁小学校

テーマ「生き生きとした表現を求めて」
—感動の開発と構想力を高める指導のこころみ—
造形的にもものを見、発想に基づいて表現するまでの語らい。紙上発表のほかにはVTR、スライ

ド、OHPなどの活用をはかり、指導場面再現の具体化をはかる。由仁町三本柱、寺谷安雄事務局長と楠野満氏、衣川忠雄氏、又転動まもない川島滋氏の力も大きい。町ぐるみのあたたかい協力で南端由仁町へ250名余りがところせましと集った。

第13回「語る会」S51. 9. 26. 27岩見沢小学校

第26回全道教育研究大会がこれに変わり、合せて実施。テーマ「すべての子供に造形のよろこびを」を全道に広げた。「古くて新しい命題に向けて」の事務局長、早弓弘行氏のかけ声に、全空知のつわものがたちあがった。そして、空美の実力、語る会のあり方を全道のつわものに植えつけることが出来た事だろう。12回までの積み重ねがここに終結したすばらしい大会がこの空知に存在したのだ。

第14回「語る会」S52. 10. 14 奈井江小学校

テーマ「土に生きる子供の造形」
=感動のほりおこしと題材のみなおし= にむけ「空知っ子」の土根性をさぐるもの。「土に生きる子供の造形」の根底として「土に生きる教師」が問われる。空知のよさを知り、足もとをえぐり、教育の根本を問いなおす話題も深まる。そして、ねばり強く、じっくり考え、豊かな発想をめざす「空知っ子気質」をと……。田上事務局長、渡辺研究部長を中心に作品の山が印象的。

第15回「語る会」S53. 9. 1 幌加内小学校

テーマ「土に生きる子供と教師」=身近な美に気付かせよう=という子供と教師の共通した目を養い、空知の子供と教師ので根性からみなおした。空知の最北端、幌加内町のパワーのもとに「空知美術教育研究会」10周年記念行事と合せ、盛大に行われた。長谷川まゆみ事務局長を中心に北空知学芸連と全町を上げての成功に15回の歴史をかえりみた。

写真で綴る語る会のあゆみ

第15回大会以降

昭和53年 第15回 梶加内大会（梶加内小学校）
昭和54年 第16回 砂川大会（砂川市民会館）
昭和55年 第17回 美唄大会（美唄東小学校）
昭和56年 第18回 栗沢大会（栗沢小学校）
昭和56年 第19回 妹背牛大会（妹背牛小学校）

昭和58年 第20回 滝川大会（滝川第二小学校）
昭和59年 第21回 長沼大会（長沼中央小学校）
昭和60年 第22回 岩見沢大会（東小学校）
昭和61年 第23回 北竜大会（碧水小学校）
昭和62年 第24回 浦臼大会（晩生内小学校）

第15回作品を語る会梶加内大会を終えて

名寄市立豊西小学校 長谷川 まゆみ

私と空美との出会いは、作品を語る会を通して人間性をテーマにした会に魅力を持った事からはじまります。毎年の作品を語る会への出品、また参加しての話し合いが待ちどおしく、日常実践の中で、悩みを解消し、明日からの園工の指導に希望をもたらすものでした。

いつの頃からでしたでしょうか。北のはて梶加内で、絵の大会が持てたらと思うようになり、何度か話し合いをした事もありましたが、実現しませんでした。今回、渡辺玲一校長先生のご尽力がありまして、第15回作品を語る会が開催できるようになりました事は、空美としても、梶加内の園工教育としても大変意義あることと思ひ感謝にたえません。

前日の前夜祭作品をこわきにかかえた空美の会員がぞくぞくと集合、空美の結集の深さを見せました。大会当日200名あまりの会員、先生方、父母の方々大会に結集、熱心な討論が展開され、休息時には梶小PTA手づくりの梶加内の味覚えだ豆、トウキビ、牛乳などに舌づつみをうち、梶加内のふんいきを満喫されたことと思います。

大会に参加したお母さんの話

「絵のことでこんなに真剣に話し合ったり、考えているなんて絵は大切なものなのですね。絵が心の表現なんて、考えてもいませんでした。来てほんとうによかった。」等……

梶小の先生の話

「かたくるしい分科会でなく、話の中味がとても楽しく勉強になった。すぐ作品に結びつくまでには自分としては間があるが、人間性が感じられ

る。空美研に入る必要があるね。来年の砂川大会はどうしても成功させなければならない。梶小は臨休にしても行こうや。」等……

大会に参加して絵というものに対する考え方も変わったようです。

作品を語る会はみんなのものであり、話し合われた事はひとりひとりの財産として、又みんなの財産として、大きく大きく輪をひろげて行こうと参加者ひとりひとりが、十分自覚して帰られた事と確信します。

本大会が、梶小の職員をはじめ梶加内町内の先生方、学芸連の美術部会の先生方、空美の役員、みんなの力の結集が大会を成功させました。何人かの力の結集ではなく、多くの人の力が合わさって一つの大会が終る。これが、空美（作品を語る会）の生き方です。

これからも空美がますます発展し、来年の砂川大会が成功するよう力をおしめます。

最後に、大会の裏で本当に大会をささえてくれた梶小のPTA役員及び父母の皆さんに感謝します。砂川大会で会いましょう。





い
か
か
で
す
か

幌加内みやげ

全員の用紙をそろそろ下前で
販売中!!

おかし ポンコタン・ペケット
ピシヤカんの3種販売

おみやげ わかさび、うぐい、ふな

幌加内よりアをこめて

幌加内の印象はいかがだったでしょうか。
山の中でタマとでも住んでいると思ったの
ではないでしょうか。

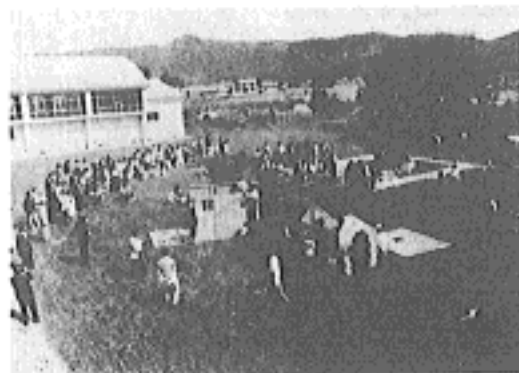
学校のまわり一面緑につつまれた田園の中で、
夏はバッタとり、冬にはスキーと文字どおり
土に生きる教師と子どもらでがっちりスタ
ラムを組んでの教育です。

かざりっけのない人間が、かざりっけのない
子どもたちと一つの作品をつくることにホン
モノの造形教育があるのではないでしょ
うか。本大会が成功に終了できましたことは、幌
加内町の先生方、北空知学芸連の先生方、空美
の先生方、そして一般会員のみなさんのおか
げです。

みなさんの結集された力が大きな輪となり、
来年の砂川大会につづくことを確信いたしま
す。

最後に、この大会のために、本校PTAのみ
なさんの力つよいで支援があったことを伝え
参加者のみなさんにお礼のことばとします。

大会事務局長 長谷川 まゆみ



土に生きる子どもと教師

第16回 砂川大会

会 期 ・ 1979. 10. 16
会 場 ・ 砂川市総合福祉センター
主 催 ・ 空知美術教育研究会

○ 大会テーマ

〈感動のほりおこしから豊かな創造へ〉
—豊かな造形性を育てる指導法を求めて—

橋 本 保 隆

(現・滝川市立滝川第一小学校)



○ 大会アピール

むずかしい ことばは いらない
すなおに みつめよう
心して みつめよう
手にする すべてのものが
眼に見える すべてのものが
語りかけてくる
その声が聴えたら
さあはじめよう
みんなで 創造の世界へとびこもう

○ 実技コーナー

中央小2年「遊びの指導」(空飛ぶ円盤)
指導者 中里 馨(栗山小学校)
中村多恵子(砂川中央小)



○ 雑 感

とにかく砂川大会は、サークル員を中心にもえた大会でした。

アンケートによる事前調査、授業風景の設置、鑑賞コーナー、作品交換コーナー、絵の病院等は砂川大会の目玉として設けられました。

アンケートは、幼稚園から中学校まで現場の生の声が浮き彫りにされ、

話し合いの中心課題として取り上げられたことは大きな成果だった。

約二百名の参加をえ、数々の成果と反省を残し終了した砂川大会。本大会の関係各位に感謝し雑感とします。(H)



気迫で乗り越えた美明大会

美明市立東栄小学校 辻 義彦

美明大会を終えて、1年後に転勤したせいか、もうずいぶん昔のこのように思われて、回想するのに苦労しています。

なにせ空美の大会には、三回ほどしか顔を出した経験がなく、ただ美明の園工美術部会の部長をしていたばかりに大役をお引受けして、栗沢にバトンタッチしたら、もう顔も出さない最低の会員なものですから。

おまけに転出先の学校では音楽専科をさせられていて、好きな美術もやめさせられてしまいました。

これも空美のせいなんです。美明大会のときに、アトラクションを何にするか検討した折に、主に経費の関係で他の団体をお願いするのが困難になりました。

それで仕方なく、私の三味線伴奏で父母の1人に「津軽あいや節」と「弥三郎節」を唄わせたのです。

それが転出先の先生がたに覚えられていて、民謡が出来るんだから音楽も出来る筈だ、「やれっ」と、まあこんな結果になってしまった。ほんとうにいまましい空美研なのである。

しかし、この大会をとおして私は普段では決して学べない多くの貴重な人生勉強をさせて戴きました。

青山清輝先生から「来年は美明でやれよ」と言われたとき、部会の先生方に相談もしないで返事をしてしまったし、部会を開いたとき、職場の先生がたにも学校長にも相談しないで「会場は東小学校を臨休にしてやる」と言ってしまったのです。

今、考えてもゾーッとすることを40才の私は出来たのです。きっと学校長が空美研の会長を務めた徳梅英次郎氏であったという甘えもあったのかもしれません。

しかし、民間教育団体が開催することに学校を臨休にする根拠を示せ、どんな民間教育団体であっても臨休にするのか等々、質問せめて私はしどろもどろ。徳梅校長は退職も間近かで先生がたから嫌われるのをいやがって一言も言わない。資料不足につき次回の職員会議に再提出せよ。提出のたびに次回継続審議となる。

あるサークル員からは「やはり学校を使うのは無理だ」「会場を市民会館に変更しよう」との声も出てくる。「大丈夫だって」私は断固として意志を変えなかった。

再提出の繰り返しであっても、職場の先生がたには依固地さがないということを唯暗に私は見抜いていたからだった。

そして、12月の職員会議、8度目の提案で、ついに臨休、会場借用。全職員役員となって応援することが決定された。

会議が終わった後、職場の先生方から、「おめでとう」「よかったね」「おべり勝ちだ」「大した者だ」と言われたときは、さすが目がしらが熱くなったのを覚えている。

第17回大会をとおして最大の感激は盛大な当日の盛り上がりもさることながら、この12月の職員会議にあったのです。

私はこの大きな行事を終えて、筋を通すことも大切であるが、普段の同僚との付き合いが最終的な決定を左右するというところをつくづく感じさせられました。

これも、やはり空美研あつての体験だとすると、空美のみなさまに心から感謝を申し上げなければなりません。空美研のますますの発展を御祝念致します。

(第17回事務局長)

第18回 栗沢大会

会期 1981. 10. 16

会場 栗沢小学校

藤田弘司

(現、赤平市立茂尻小学校教頭)

第1回の開催地、栗沢小学校を会場にして開催してくださいと、事務局より依頼があり、美唄大会の閉会式のとき、空美の旗を美唄の事務局長から次の開催地栗沢へと引きついでとき、来年は栗沢で開催するんだという、旗の重さで実感がわいてきました。

11月の職員会議のときに、58年、第18回「空知子どもの作品を語る会」は栗沢小学校を会場にして開催したいので、ということを経済局の先生方の共通理解をいただき、先生方もよい機会なので、協力しましょうと、気持ちよく引きうけてくれましたので、まず、ひと安心。

すぐ、図工、美術サークルに報告して、来年度はサークル部員はほかのサークルに入らないで、みんなで協力しあって栗沢大会を成功させようということになり、誓いの酒をくみかわし、構想をねったひとコマもありました。

サークルの体制が整ったので、南空知のサークルの先生方にも応援をしていただくということと、4月早々に南空知のサークル部員に集まっていたいただき、栗沢でこんな主題「感動のゆさぶりと豊かな表現を求めて」をテーマにして開催したいので、ご協力をお願いしたいと説明しましたら、みなさん協力的で、その場で、それぞれの担当を決め、大会までの集まるとの作業日程も決まり、また、ひと安心。

初て、前日と当日のことについてひとこと。

前日の昼から栗沢小学校の教職全員で、それぞれのコーナーや会場づくりに、ひと汗かいて、大変よい会場ができました。会場が半分くらいできあがった頃には空美の面々も集まり、栗沢小学校の先生方の協力ぶりに、びっくりしていたところたくさんあり――。

あとは空美の方々が小さなところの飾りつけでその日は終わりました。

当日、町外からの参加者168名あり、事務局もびっくりしました。町内外合わせて、200人くらいだろうと思っていたのが、予想以上の参加者でまたもびっくり。

大会も成功のうちに終わって、町の体育館で本校の職員と空美の方々の反省会で、ささやかれたことを……。

本校職員より、空知管内の先生方がこんなに熱心に美術教育をやっているとは、よい作品がたくさんあること。子どもたちに空知の友だちがこんなよい作品をかいていることを認識させたこと。今まで、画用紙を子どもにあたえて、さあ、かきなさいで終わっていたが、これからは、子どもたちが描こうとする意欲などをかきたてるより工夫しなければ……。

また、空美の先生方は、栗沢小学校の先生は、みんなで協力してやってくれたので、本当に感謝の一語につきると感嘆。

当日の昼すぎ、夕張の炭こうでガス突出で98名の尊い人命がなくなり、新聞はそのニュースばかりで、21日にやっと空知版にそのときのようすが新聞にのったわけです。

(第18回大会 事務局長)



妹背牛大会をふりかえって

渡辺 貞之

(現、深川市立菊水小学校)

妹背牛小学校では、まだ不完全とはいえ一応まとまった図工カリキュラムができ、それなりの実践が定着しつつあった。図工教科がなんとなく軽視され、その結果子ども達の作品にも活気が感じられなく、まあそれが一般の学校でみられるごく普通の状態であるからさして気にしていないというのが正直なところであった。そんな中で比較的図工に興味を持っている先生達によびかけて図工サークルをつくった。あまり気張らないで、性急にならないで、じわっと図工教育を充実させていこうと話した。そうして7年、やっと、本校で「語る会」をやるまでになった。思えば本当に気の長い話であって、それだけに私にとっては嬉しく、張り切る気持ちをおさえることはできなかった。

「語る会」って聞いたことあるけど、どんな事やるんだ。なんかむずかしそうでめんどりだな。うちの学校、大したことやってないのになんでわざわざやらなきゃならんのだ。あんまりやる気がないけどさして反対する理由もないから沈黙……。重苦しい沈黙……。ま、悪いことでないし、とにかくやってみようじゃないですか！ 白けかけたムードの中で1人の先生が言いはなってくれた。

あんまりみんなの負担にならないように、できるだけお金をかけないで、手づくりの感じがあってそのために今までになかったようなアイデアを考えなくちゃ。そうして、こうして第19回全空知子どもの作品を語る会妹背牛大会は「子どもの感動をよんだ題材・教材・指導法」というメインテーマをかかげて、昭和57年10月15日にひらかれたのでした。

この大会の特徴を以下列記してみよう。

(1) あんまり、くそまじめな研究会ムードをやめ、

ラフな気持ちで参加できるようにしよう。

- 無料の喫茶コーナーを中庭につくって、ゆったりコーヒーなど飲みながら話し合う。
 - ステキナフランス映画「赤い風船」をアトラクションでみてもらう。
- (2) 妹背牛小学校の図工教育をみてもらおう。
- 妹背っ子まつりの行進を、参加してくれた先生達にみてもらう。
 - コーナー全部に子ども達の作品を出品し、先生達も全員参加してもらう。
- (3) 校下に、図工教育を少しでもわかってもらおう。
- お母さん達におわがいでして昼食のカレーライスを作ってもらおう。
 - 妹背っ子まつりの行進をしながら、大会の宣伝をする。

大会がおわって、ふりかえってみれば、初めしぶしぶだった本校の先生達が意外に一生懸命協力してくれた事。ある先生の感想「うちの学校の図工のレベル、けっこうなもんだということがわかった」ああ、この一言で、むりくり、うちの学校でやってよかった。苦勞したかいがあったというもんです。





妹背っ子まつり 元気に出発

今年の作品を語る会は、たくさんさんの作品展と大きな特徴は「妹背っ子まつり」という造形行進が大会の雰囲気をもたせているといえましょう。

10時30分、各学年、フラカードを先頭に作品をもってグラウンドに集合。

元気よく開会を宣言!

6年生のみこしを先頭に街頭をパレード。保護者の父母の方々の声援を一杯に受け、妹背っ子町の将来の造形教育に大きな前進をもたらしてくれました。

将来の発展を夢見た先生が安々然と語りながら……。

ワッ
ッ
イ
ッ
イ
ッ
ッ
イ
ッ
ッ
イ
!



本日のスケジュール

9:00	～	9:30	受付
9:30	～	10:30	開会式
10:30	～	11:30	妹背っ子祭
11:30	～	13:00	懇談、授賞 昼食、映画会
13:30	～	15:30	作品を見ながら語る会
15:30	～	16:00	閉会式、後片付け
16:00	～		レセプション

食事はおいしい
カレーライス!!

光のかがやき
詩情あふれる
「奇い風船」

みんなを
お招きします!

みんなで活動する造形教育

みんなで参加して 動くもの音の出るものなどの演習をしよう

ひたむきに造形活動にうちこむ子どもを育てたい。
子どもに新しい発見の喜びと完成の感動を味わわせたい。
ひとりの子どもも傍観者にさせることなく、先生も親も
子ども夢中にさせる活動を目指したい。
そのための条件はいろいろありましょう。この大会でそ
のを探り、私たちが自らも制作の喜びを味わってみま
しょう。

ごあいさつ

みなさまには益々ど健勝にて教育実践にご精進のことと存じます。
さて、このたび、第20回「全空知子どもの作品を語る会」を開催すること
になりました。この会は大変ユニークな会として、各方面の注目をあつめ、全
道各地の「語る会」を生む源泉となったのでございます。昭和39年発足以来
各位のご援助によりまして年々発展し、本年をもって20回大会に至りました。
日頃のご援助に心から御礼申し上げる次第でございます。
本年も各位のご参加によりまして、空知の子ども「語る会」が一層充実する
ことを願い、ご案内申し上げます。

第20回 全空知子どもの作品を語る会
大会長 早 弓 弘 行
運営委員長 高 田 信 一

昭和58年10月20日 滝川市立第2小学校

大会記事第10期掲載

★21回 全空知子どもの作品を語る会

子ども達の作品が大好きな先生方大集合!

期日 昭和59年9月28日(金) AM 9:00~
場所 長沼町立長沼中央小学校

主催 空知美術研究会
会費 会員 1000円
一般 1500円

「遊んで楽しむ 造形教室」

みんなで参加して子どもと共に遊ぶ よろこびを 放ちましょう

会場の片すみでは空美の先生達の
展覽会と 品評会 (△500円)

あるは
ばらばら
さいさい
あいらん



他の教室
おんたのクラス
の子供達の感
動をみるこ
んが、名画?が
観望にアドバ
イスをします。

子ども達が工作をつくら
る所を参観
そのあと
おまわりにも
参加

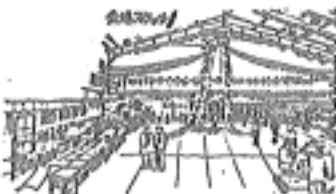


そして、メインはやっぱり みんなで 踊り合ひましょう。
机取りや、歌取したこと、どっくばらんに 気取らないで
その中にさっとキラリと元氣がわきますよ。



たのしいよ、工作曜日、各コーナ
で 色々な楽しい工作をつくりま
しょう。たくさんの型紙もおみやげに
どうぞ。

今年は例年よりもっと
はやく、9月28日に
長沼中央小学校でおこ
なわれました。長沼中
央小学校には、中置學
堂下宿舎地帯という狭小
なコンドミニアムがど
ちんと見取りができ
ていて、空美の授業も
今回はとても楽し
ませてもらいました。大
会もとても盛況で、
印象深いものでした。



子ども達 目が
かがやせて
こんな楽しい
作品をつくり
ましたよ。



第22回
全空知
子どもの作品を語る会



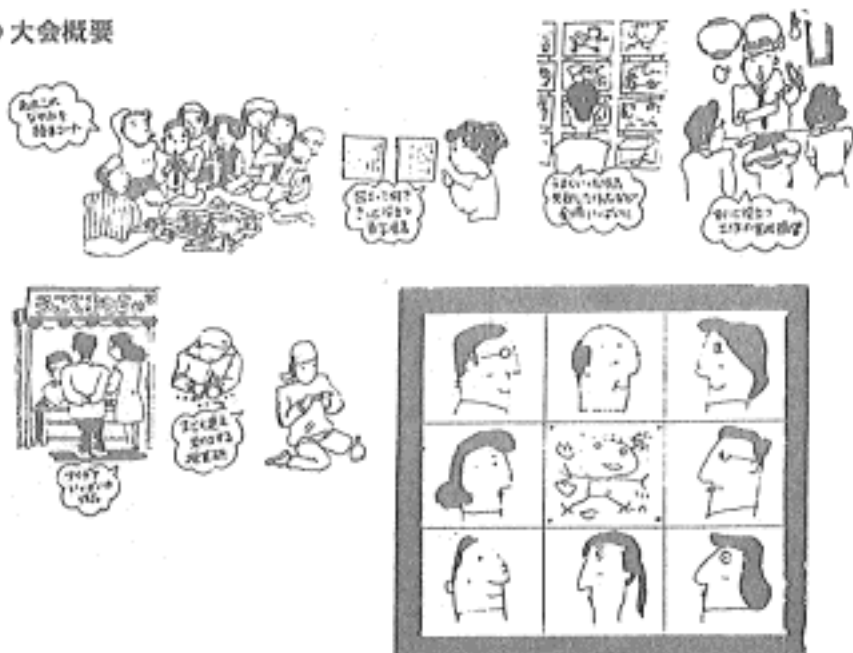
『創って楽しむ造形教育』

- ・昭和60年10月8日
- ・岩見沢市立原小学校
- ・主催 岩見沢市教育委員会
- ・協賛 岩見沢市教育委員会 岩見沢市国工美術協会

●大会日程

9:00	9:30	9:45	10:30	12:00	13:00	15:30	15:45
受付	開会式	親工作教室	提練日など	アフタクトラン	昼食	語る会	閉会式

●大会概要



10月8日 志見沢小学校でございました
 が22回 全空知子どもの作品を語る会は、伊
 勢津に多くの方々が参加下さり、非常に盛況で
 した。出席された方よりよかったですという感想をた
 くさんいただきました。
 実行委員会の皆さまもたいへんな苦勞だと思
 います。会場いっぱいあふれた、子どもの作品
 と、たくさんアイデア、語る会ならではの
 雰囲気でした。

才22回 全空知 子どもの 作品を 語る会



各コーナーの話しあいよ～

小学校中学年コーナー

- ・ マインペン・サインペンで下絵を
かくことにはどうなのよ。
- ・ 線に塗らずに、項間や色の
区別で塗る方がよいです
(色を塗る時は、線は塗らない
で塗ります)
- ・ マークを塗り重ねる時は、
色の相違
- ・ ペンシルを使わずに線を使
わねば、消えぬ線になる練習
が必要です。

小学校高学年コーナー

○ 人物画の場合

- ・ 子どもに気遣いをかけないために、先生
がモデルになる
- ・ 指導は、モデルをしぼり出す中
をどう足とどろというわけにはない
ところが長所
- ・ プレドージャーなどは、項間や立体
の練習に良いが、指導としてはどう
だろうか
書いてあるところをどうやらよく

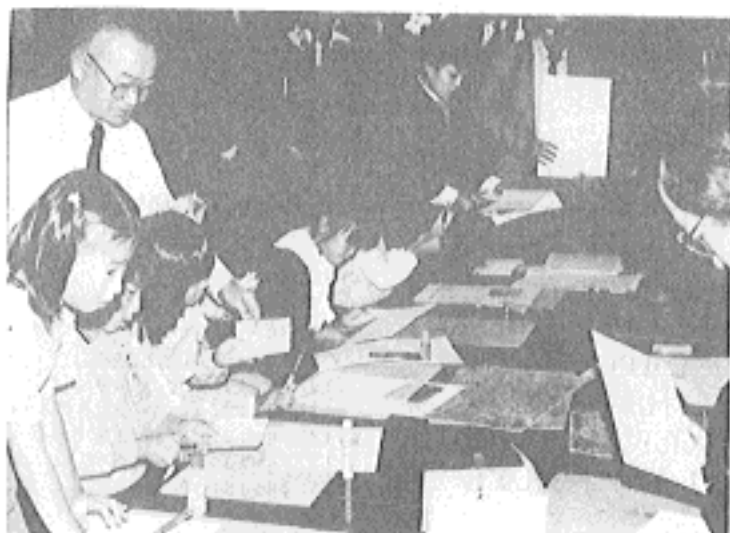
小学校 低学年コーナー

年齢、絵の具の種類などの
 文5分、10分、15分のほかに、
 子どもの話し合い。
 低学年の絵、線描を大事
 にして、描き出しの点を直
 にしてまたのこす。
 子どもは、子どもの絵は
 よくわかるから、鑑賞も大
 事。
 鑑賞は、又自分もその賞
 状のふりか、子どもは
 好きの。ホ、ホ、コワイ
 場合と...

中学校コーナー

※ 意見交換 積極的

- ・ 学生会の持ち方
- ・ 場所の整理は、どんな形にしておきたいか
(会場が狭いときは、机を1つだけ置くか、机を2つ置くか、机を3つ置くか)
(机を2つ置くときは、机を1つだけ置くか、机を2つ置くか、机を3つ置くか)
- ・ 会場、マイク、机の整理
- ・ 会場は、机を1つだけ置くか、机を2つ置くか、机を3つ置くか





第23回
全空知
子どもの作品を語る会



「明日に生きる創造性の芽を育てよう」

—ふるさとに根ざした表現力の育成—

とき/昭和64年10月30日(木) ところ/帯広市立南小学校
主催/空知美術研究会 後援/北空知教育委員会・空知教育局



おひるごはんがなんと無料?
ぶつ切りの肉がたっぷり入って
いるふた汁とつげもの。手ど
も達が学校田でつくったご
はん。もうかんぱいの心
がいっぱいでした。
無料も嬉しかたですが、こ
うした心あたをまるもてなし
は、本当に感動します。

会費 会員 1,000円
一般 1,500円
学生・文庫 無料

○スケジュール

9:00～ 受付
9:30～ 9:40 開会式
9:45～10:30 公開授業
10:30～11:40 工作演習
11:40～12:00 アトラクション
12:00～13:00 昼食休憩
13:00～15:20 語る会
15:20～15:30 閉会式



みなさまには益々ご健勝にて教育実践にご精進のことと存じます。

さて、このたび第23回「全空知子どもの作品を語る会」を開催することになりました。この会は大変ユニークな会として、各方面の注目をあつめ、全道各地の「語る会」を生む源泉となったのでございます。昭和39年発足以来、各位のご賛助によりまして年々発展し、本年をもって23回の大会に参りました。日ごろのご賛助に心から御礼申し上げる次第でございます。

本年も各位のご参加によりまして、空知の子ども「語る会」が一層充実することを願い、ご案内申し上げます。

第23回 全空知子どもの作品を語る会



公開の後悔 **まろがりじやまろ**



▷大会テーマ
明日に生きる創造性
の芽を育てよう
～ふるさとに根ざした
表現力の育成～

小学校低学年(ワンちゃん
先生と園工) 指導
ねんどの丸ご 渡辺真久

ワンちゃん先生の自己紹介から
始まった予選は、すでに遠くを
観ている者の席と心れている。
今日の園工は、リングも自分で
五感を使っていきいき粘土リング
を作ることらしい。

怕めに目を使った観察をし、
リングをけのちの中にしま、下ろ
し、と、言われるとうにした。
突然、' 入らねーい!' と子供達
は、泣いた。

小学校高学年(ひこうき
を作る) 指導
山下露美子

4人のグループで机を向い合
わせていた教室の中は、13階級
の珍しい名前が飛行機に集中
していた。
教名の仲間が、自由に飛行機
を遊んで、飛せってみることか
ら始まっていた。何と遊ぶか、
どこまで飛ぶか、予選の目は、
熱く輝いていた。

今度は自分で
作って飛そう。



いつもは自分の知らない
色紙をいっぺんに
こぼしてはびきりながら
2枚も3枚も
ふさいで/と体の声
今年も新南記は青い色紙
をこぼしてはびきりながら
の太鼓頭、他はこぼれ
たりせんーおんな鹿角
月夜 12月24日 01:00

おひるごはん みんな
おいしいたといっています。
道新の新南記着の人
など、2杯もおかわり
してました。ほんとに
うまかったんですね。



そのおと
合計9点も
かいていただきました。
ありがたはずべて金の
運筆にあてておこ
なっています。

絵の病院
ひさしぶりに
見物さんが
きました。
この数年おまり
こなくてこれじゃ
休養しなくちゃと
いうとどうでしたか
よかったです

朝になつても小学校
高学年の作品が
こなつて ガラヘン
水谷先生、やまも
きてこました。こ
まの
でも午後からホ
今も分出てきて
まはホッ!

やはり子ども、習
水の子もために
どうだい、自分たちが
作った作品は、とさ
と、どの子も、自分た
ちのがいちばんうま
い! そうです。その
自信が明日への成
功につながるのだ
す。

エピソード



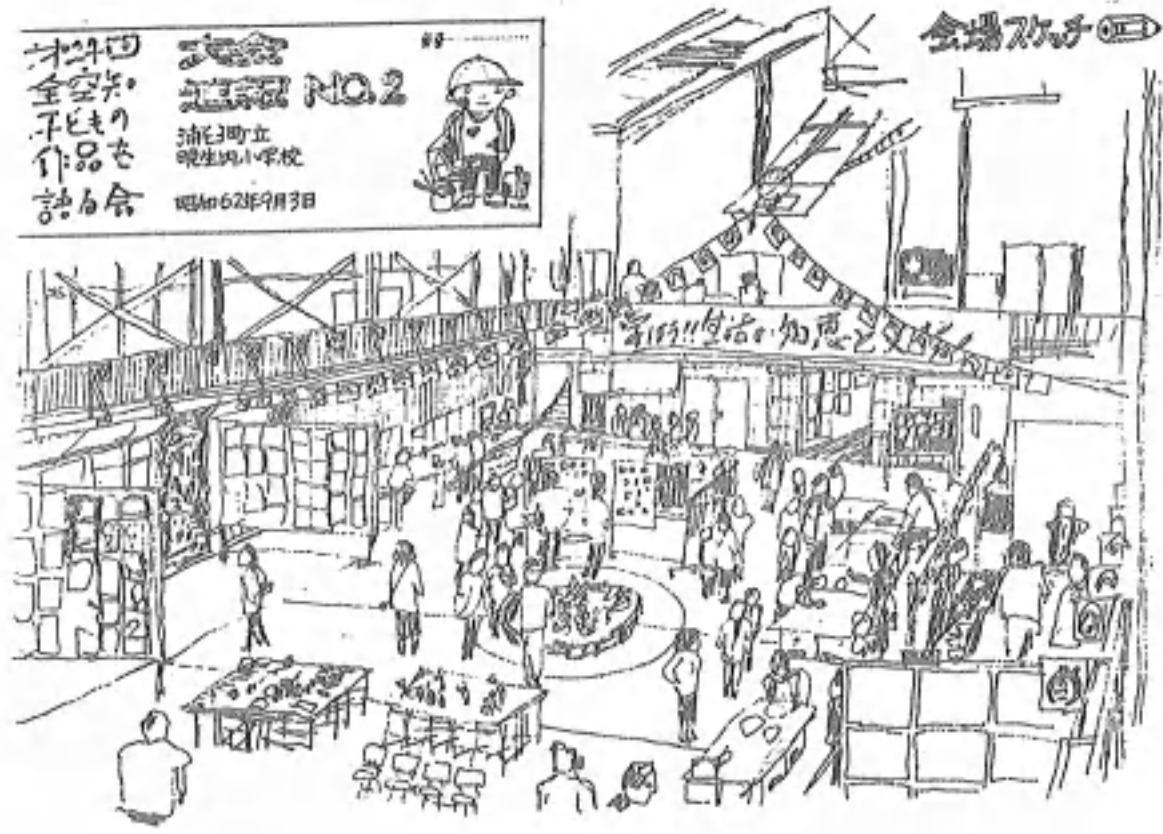
公開検査でりんごづく
りんごをみないで手で
かんざしはつてつくら
そうとした モクロミも
なんとリングが太すぎて
おれに入らない! これでは
どうしてもみえてしまふ
そこで、息を、ボウンをか
くして... こんなこともあ
るんです

才力四
 全空知
 千ピキの
 作品を
 語る会

交流会 NO.2
 浦尾町立
 観生岡小学校
 昭和62年9月3日



会場乃子



千ピキ
 もっとこうして
 ほしいなどが

絵画の展示はいい作品、観るには
 好、お礼よりお礼を言いたいと思
 います。

大人も勉強になる、
 お礼の言葉も聞きたいと思
 います。

しゃべりながら、お礼の言葉、
 40代 男

例題の展示はいい作品、観るには
 好、お礼よりお礼を言いたいと思
 います。

大人も勉強になる、
 お礼の言葉も聞きたいと思
 います。

しゃべりながら、お礼の言葉、
 40代 男

大人も勉強になる、
 お礼の言葉も聞きたいと思
 います。

しゃべりながら、お礼の言葉、
 40代 男

しゃべりながら、お礼の言葉、
 40代 男

しゃべりながら、お礼の言葉、
 40代 男

しゃべりながら、お礼の言葉、
 40代 男

しゃべりながら、お礼の言葉、
 40代 男

しゃべりながら、お礼の言葉、
 40代 男

しゃべりながら、お礼の言葉、
 40代 男



「見る目を育てるクロッキー」

(全校の実践より)

岩見沢市立毛陽小学校

青竹 栄子

I 子ども達に、物をしっかり見つめる目と、心をつかませたい。形に対する概念を取りのぞき技能の向上を図り、少しでも表現への深まりと、表現への喜びを味わせたいとの考えで、20分間クロッキー(毎週水曜日、朝のショート集会)を続けて、10年以上たちました。

子どもたちの学年差、個人差、能力差を考え、自分の身のまわりの物から、人物クロッキーに進み、最近では人物クロッキーが中心になり、成長の経過を見ています。モデルは1人で、毎週交代していきます。はじめのうちは、全くモデルを見ない子も、3年生以上になると、ぐんぐん上達して、自信を持ってきます。回を重ねることによって、速度もつき、線に表情が出て全体のバランスをつかむようになります。あまり高度な目標を立てず、練習することによって向上してくればよいと、おさえて指導してきました。

II クロッキー内容

	題 材	ね ら い ・ お さ え
低	立ちポーズ。 体操するポーズ	のびのび描く、背中の曲がり 顔と頭、手、足の関係をつかまえる。
中	立ちポーズ。 働くポーズ。 椅子にかけたポ ーズ。座る。	頭と腕との関係、腕の曲がりに気づか せる。手の曲がり、長さに気づかせる 線の動き、方向を考えて描く 座っている中心や、手足の関係をみる
高	立ちポーズ。 椅子にかける。 座るポーズ。	全体のバランスを考えて、線の強弱、 線のうごきをとらえる。 体の中心、重なりをよくみる。

III まとめ

人物クロッキーは難しいものですが、長年の積み重ねにより、確かな観察の目を育てることができました。また、子ども達の版画や、いろいろな作品づくりの、基礎、基本になっているようです。これからも、子ども達の限らない可能性を求めて継続していくつもりです。63年度4月～5月のクロッキーの一部を資料として展示します。

毛陽小



63. 5. 11 撮影

テーマをもって取り組みを……

深川市立一巳中学校 高橋 秀明

教員2年目の私に突然、実践記録の依頼がきました。まったく実践などない私にとってびっくりした次第で、あれこれ考え昨年1年間の中で自分なりに「顔」というテーマを設け取り組ませたことについて記録してみることにしました。対象は3年生で「顔」というテーマの中に自己、友人をしっかりと見つめ直すという考えをもちこんでいきました。

取り組みの第一弾として、まずは鏡をつかって自画像を描かせて行きました。ここでは顔の作り、バランスについて考えさせることにしたのです。人それぞれに輪郭、目、鼻、口、髪など形が異なりますが顔という土台にのせたときに、その位置はほとんどかわらず一定のバランスで規則正しく乗っていることに気づかせ、しっかりした顔のバランスを描けるように注意させていきました。注意させた顔のバランスは左の図にあるような点がおもなポイントでこれをおさえた上で描きこむようにさせこれによりある程度の結果をおさえることができました。



続いて第2弾の製作として「友人の顔」ということでデッサンを描かせました。これにはねらいがあり次の第3弾の製作、レリーフ（友人の顔）につなげて行きたいと考え、レリーフの肉厚の高さ（奥行き）を意識した、立体的なデッサンをさせたのです。

そもそも、レリーフは彫刻の分野にありながら絵画的要素が非常に多く、優れたレリーフを作るためには、絵画性を充分に取り入れる必要があると考えたのです。この高さ（奥行き）を意識した立体的なデッサンとは、レリーフ表現で一番高く表わす鼻などの部分をそのまま画用紙の白を利用し、それから順に低い箇所に鉛筆を重ねて行き、低い箇所がより鉛筆で黒く描きこまれるデッサンでより空間感覚が強まったデッサンです。レリーフの肉付けの際に明るい箇所には粘土を厚く、暗い箇所には粘土を薄く、見比べながら作業するときはこのデッサンを利用させたのです。こうすることによりレリーフの中に絵画性を盛りこんで行くことを試みたのです。その他の取り組みとしてはとかく目や口、あご、ひたいなど平板に作ってしまいがちな点を内部構造がどうなっているか、髪が顔にどのようになっているかよく理解させレリーフを作ることを心がけさせました。1年目の取り組みとしてはまあまああの結果をだせましたが、まだ完全なものといえずこれからもさらに実践を重ねて行きたいと思います。（63年5月）



木彫「家紋」

雨竜町立雨竜中学校

田家靖久

雨竜町は、明治に入ってからの人植者が開拓し現在の水田地帯を広げていった歴史的経緯があり、それも全国各地（特に富士、愛媛、香川、東北各地……中には淡路島も以外と多い）からの移住があったことから、作品にも見られるように全国に一万以上もあるといわれる家紋にも歴史的にいろいろなものがうかがえる。又その数の多いのにも驚かされる。

本校では2年生に木彫を取り入れている。材料は木彫に適したかつらを利用、できるだけ木地のまゝで、木の自然さやぬくもりを生かして着色させている。

中学校になると学習に取り組む以前の意識・意欲・態度が問われているが、本校は純農村（6学級）であり、小一・中一校の生徒は小学校から素直に与えられたものごとに取り組む姿勢はできているものの、発想から作品に対する価値の高まりに欠けている傾向にある。本校では一年次から自分の作品に最後まで根気よく取りくみ完成した喜び（成就感）を味わわせることに配慮し日常生活の中にもその精神を意識させてきている。

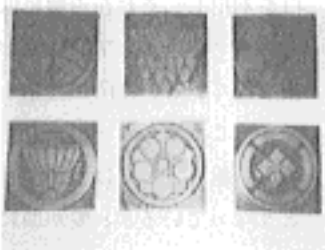
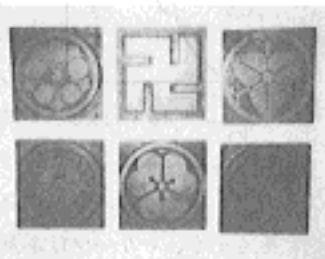
<制作> 12時間 配時

自分の家の祖霊のシンボルにもなっている家紋を調べることから始める（紋型と紋名）～ 祖父母、両親に聞く～ 墓地まで行って墓石からうつしとってくるものもある～

1. 桂材（15×15cm）に紋型を作図 ……1/12
2. 彫り込む計画と彫刻刀の使用法 ……2/12
3. 彫り作業 ……3/12～8/12
4. 木地みがき（サンドペーパー、布地）…9/12～10/12
5. 着色（水彩えのぐ）及び木地みがき…11/12
6. 口塗り・木地みがき（ナイロン系布地）…12/12

<その他>

雨竜町文化祭に展示したところ思わぬ反響があり生徒に販売してほしいと申し出た町民もあり制作した生徒も大喜びであった。



「野焼き」に
挑戦してみませんか

晩生内小学校
川村 恒夫



- ◎ 『野焼き』……それは ロマンです。
生活の知恵の源が 野焼きにも秘められて
いるようにさえ思えます。
野焼きの実践には 時間、空間、心の余裕
が必要です。

井 季節を選び、天候を選び、場所を選び、
材料を選び、ゆったりと落ち着いた心の
余裕を選びます。成功する鍵は そのへ
んにも有りそうです。

井 これからの実践に役立つかどうか……
—— 拙い実践を振り返って気の付いたこ
とを一言 ——

- 市販の粘土でも良くねることが大切、
でも余りいじっていると手の温かみで
粘土は乾く、耳たお程度とか。
- 作品の厚みも大切な要素、大きくて薄
いと割れそうな感じ、小さくて厚いと
重厚でスマートさに欠ける感じ。
- 影乾し(7~10日)の後は直射日光で
乾かす。

井 いよいよ『野焼き』に挑戦 井

- ① 地面を濡める…藁を沢山燃やして藁灰
を作り、その上に作品を乗せる。藁灰の
下に更に藁を敷くとよい。
- ② 作品を中央に置き たきぎを周りに置
いてあぶりする。たきぎは火のつ
きやすいものを用意する。枯枝や細い木
を沢山用意するとよい。あぶりは時間を
かけ根気よく、最低2時間はかける。
- ③ せめたきの段階に入るとなんぼ火力を
上げて割れる心配は無いがそのことの
見定めが難しいところ。見えない底まで
きちんと焼きあげるには火力と時間が必
要。
- ④ せめたきの後は 上に藁を乗せて熱や
す藁が保温の役割を果たす。
- ⑤ 作品の取り出しは 翌日が良い。徐々
に作品の温度を下げていくようにする。
- ⑥ 作品のでき具合を均一にするには 火
の当たりかたがあって大変難しい問題。
割れないように十分配慮したつもりでも
そうなった場合にどうするか 子どもと
事前に良く話しておく。

- ◎ 美術は感動の学習、広い自然の中で様
々な思いをめぐらしながら 教師と子ども
とが一体となって進める学習には 貴重な
得難い学習が潜んでいるように思います。



ざあ
 いらっしやい
 いらっしやい
 子どもも大人も
 先生も
 みんなで
 いっしょに
 つくりましょ。



ベテランの
 先生たちが
 手とり足とり
 たのしい工作を
 おしえてくれます。
 ゆかいな出店が
 ずらりとならんで
 ワイワイガヤガヤ。



年次研究主題

—全道造形教育研究大会の開催地と研究主題一覧—

- 第1回(札幌) 情操教育の一環として本道図工教育の進展をはかるため。
- 第2回(札幌) 美術教育の新思潮である創造主義美術教育の諸問題について。
- 第3回(旭川) 美術教育の指導とは何か。
- 第4回(函館) 図画工作教育実践上の諸問題について。
- 第5回(釧路) 図画工作教育における学習指導上の問題点の解明
- 第6回(札幌) 造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか。
- 第7回(室蘭) のぞましい造形教育における具体的諸問題について。
- 第8回(小樽) 図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか。
- 第9回(帯広) 新段階における造形教育のあり方。
- 第10回(網走) 本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見よう。
- 第11回(滝川) 子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか。
- 第12回(名寄) 子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。
- 第13回(余市) 子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。
- 第14回(札幌) 子どもの造形能力とは何か。
- 第15回(稚内) 子どもの造形能力とは何か。
- 第16回(室蘭) 子どもの造形能力とは何か。
- 第17回(函館) 指導の構築を具体化する。
- 第18回(苫小牧) 指導の構築を具体化する。
- 第19回(札幌) 造形能力は、どのような指導によって育てられるか。
- 第20回(旭川) ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか。
- 第21回(札幌) 造形能力は、どのような指導によって育てられるか。
- 第22回(帯広) 未来に生きる子どもの造形教育(生活に根ざした造形表現をどう高めるか。)
- 第23回(室蘭) 未来に生きる子どもの造形教育(たしかな表現力をどのように育てるか。)
- 第24回(美幌) 未来に生きる子どもの造形教育(ひとりひとりの子どもの表現力をどう高めるか。)
- 第25回(江別) 未来に生きる子どもの造形教育(自ら創り出す力をどう育てるか。)
- 第26回(岩見沢) 未来に生きる子どもの造形教育(すべての子どもの造形のよろこびを。)
- 第27回(札幌) (第30回全国造形教育研究大会とかねる。) みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践。
- 第28回(函館) みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践(すべての子どもが生き生きととりくむ造形学習。)
- 第29回(旭川) 生き生きとしたゆとりのある子どもを育てる図工美術教育のあり方。
- 第30回(苫小牧) ひろがりと深まりの造形教育を求めて。
- 第31回(釧路) 創り出す心をよびおこす造形教育。
- 第32回(室蘭) 見る。知る。感ずるそして、創りあげる喜びを。
- 第33回(留萌) 生活とふれ合い、創る心のひろがりを求める造形活動。
- 第34回(札幌) 知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動(わき立つ発想・たしかな表現・つくり出す喜び)
- 第35回(函館) 知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動(心をこめてつくり出す子どもを育てる。)
- 第36回(旭川) (第39回全国造形教育研究大会とかねる。)子どもの心をゆり動かす造形教育(つくる心のひろがりと深まりを求めて)
- 第37回(紋別) 子どもをゆり動かす造形教育(表現の喜びにひたる子どもを育てる)
- 第38回(滝川) ひたむきに創る心を育てる造形教育

空美の魅力

～あるOBから～

空美研 第三代会長 徳 梅 英次郎

空美研には停年退職は無い。昭和56年3月、一応40年の教職から足を洗ってから7年たち、満67才のじじいになったが、空美のほうからは、退職金はもらっていない。

OBという名はつくが、私はまだ現役の空美会員のつもりで、会員諸士と兄弟づき合いをしている。

空美の何が、私をこれ程までに引きつけるのだろう。

園工、美術の実力のある先生方にひかかれているのか～といえ、そうでもない。

最大の理由は、空美の先生方一人一人の人的魅力ではなからうか。

早弓会長がいい例だ。管理職なのに「何といたもんだ」と体制にも直言する。美術教育の実力も勿論名会長に相応しているが、何といてもその清廉な人格、人の言をよく聞く耳が最大の魅力。全道大会が引退の花道。成功させたいね。

悠々として又ひょうひょうとして生き様を見せてくれる中里君。

「民衆の酒饗耐は——」とどなる青ちゃんこと青山君。絶対売れぬ絵かきでもある。

「なべ」こと渡辺賢之君の人的魅力も空美だけが持つ国宝的魅力。

今や、全道展のグランプリを獲得した余勢をかって、独立展にも進出。私も今から旅費をためて東京迄見にかねばならぬ。

田上君のソフトな雰囲気と大きな抱擁力は誠に貴重。彼なんか教頭になったらいい学校ができるだろうと思う。

ギター片手に「流し」が本職の山本君こと「やま」

道展でキラリと感性の鋭さを見せはじめた「けんちゃん」こと枝広君！空美は、本当に多士済済！これからも、このきづなを大切にしていこうよ。かく言う私は仏の徳。



ピパの大地

前会長
一ノ戸 信雄

札幌市西区西野
6条10丁目15-2

東の連山から マガン・白鳥の憩う沼へと展開する ピパの里

あざやかな四季 野生息づく この大地を
アイヌは「ピパオイ」と呼び
林 美美子は「美しき唄のまち」と詠んだ

美唄の活性化をはかる 街づくりは
地域彩る 手作り文化の高まりをみせ
先端産業への期待も こめられている

ロマンに満ちた ピパの大地
美唄2世紀に向けて いま
若い命が はばたいた



美唄市総合体育館 玄関正面レリーフ
7.2m×5.7m

総合体育館建築とあわせた壁画の構想企画を市から依頼されて1年半、昨年11月30日に完成し市民からしたしまれている。

道内唯一の宇宙からの使者(いん石)、宇宙から見た地球がどんなに美しかったことか。悠久の時を通じて、生命の営みを支え続けてきたやさしい自然、神秘的な大地。未知なるものへの夢はふくらむばかりである。

大空をかけめぐる。そんな願いをこめた凧づくりには、形を考える 作る できあがった凧を揚げる楽しみがある。昨年12月結成した美唄凧の会では、官島沼のマガンを凧にしてみた。連凧はマガンの編隊そのものである。「まがまんじゅう」の登上とともに、手作り文化への高まりをみせている。

現職を去り、札幌在住ですが、お世話になった市町村の文化活動に参加楽しい日々を過ごしています。



「まがまん」の連凧を揚げる。(4月30日)

〇〇〇〇〇〇〇〇 大 会 役 員 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

大会委員長 松 島 輝 男 (道造遊委員長) 高久保 勝 子 (滝川第二小)
 大会副委員長 秋 山 修 世 (◦ 副委員長) 大 西 芳 弘 (滝川東小)
 ◦ 寺 本 吉 明 (◦ ◦)
 ◦ 佐 藤 吉 五 郎 (◦ ◦)

大会理事 佐々木 理 温 (◦ 事務局長)
 ◦ 泉 敬 止 (滝川幼稚園)
 ◦ 竹 田 仁 一 (深川菊水小)
 ◦ 寺 本 孝 治 (由仁小)
 ◦ 真 田 義 孝 (赤平赤間小)
 ◦ 菊 地 悟 (岩見沢毛鷲小)
 ◦ 鈴 木 健 治 (滝川開西中)
 ◦ 酒 井 隆 (滝川明苑中)

運営委員長 早 弓 弘 行 (空美研会長)
 運営副委員長 青 山 清 輝 (◦ 副会長)
 ◦ 枝 広 健 二 (滝川園工美術委員長)
 (兼事務局長) 佐 藤 孝 (滝川東小)
 運営事務局長 田 上 功 (空美研事務局長)
 運営事務次長 内 田 暢 一 (◦ 次長)

◎総務部
 部長 水 谷 淳 (深川多度志小)
 中 里 馨 (長沼中央小)
 青 山 清 輝 (岩見沢南小)
 寺 谷 安 雄 (芦別西芦別中)
 鈴 木 誠 (奈井江中)
 中 村 多 恵 子 (赤平赤間小)

◎研 究 部
 部 長 佐 藤 一 (砂川豊沼中)
 山 下 富 美 子 (奈井江小)
 折 笠 博 三 (滝川江部乙中)
 川 西 勝 (砂川中)

◎庶務部
 部 長 枝 広 健 二 (滝川江陵中)
 山 崎 裕 子 (滝川開西中)
 土 谷 佳 代 子 (滝川西小)
 島 谷 愛 子 (滝川第三小)
 高 田 宏 昭 (新十津川花月小)
 高 橋 秀 明 (深川一己中)
 小 黒 善 富 (滝川東小)
 杉 岡 満 弘 (滝川西小)
 那 須 栄 子 (滝川第一小)

◎広 報 部
 部 長 渡 辺 貞 之 (深川菊水小)
 中 山 美 恵 子 (滝川第二小)
 納 倉 訓 (月形中和小)
 広 川 明 男 (滝川東榮小)
 白 井 万 寿 子 (美唄東小)
 玉 木 怜 (滝川西小)
 石 井 君 江 (滝川第一小)
 佐々木 カズミ (滝川第三小)

◎編 集 部
 部 長 田 家 靖 久 (雨竜中)
 川 村 恒 夫 (浦臼晩生内小)
 橋 本 保 隆 (滝川第一小)
 田 上 功 (奈井江小)

◎会 計 部
 部 長 内 田 暢 一 (岩見沢観向小)

◎会 場 部

部 長 東 淳 一 (滝川東小)
 山 本 敏 正 (新十津川中)
 梅 津 守 (滝川第一小)
 高 鶴 悦 子 (滝川第三小)
 泉 谷 孝 子 (滝川江部乙小)
 中 村 孟 (滝川東小)
 石 崎 哲 男 (北村中)
 佐 藤 正 幸 (南観中)
 阿 部 正 己 (栗沢中)
 富 樫 諭 (深川多度志中)
 寺 越 敏 晴 (滝川第一小)
 中 島 幸 男 ()
 阿 部 保 (滝川第二小)
 谷 口 暢 ()
 岡 田 政 晴 ()
 大久保 信 利 (滝川第三小)
 松 田 兀 ()
 土 肥 昭 雄 (滝川西小)
 織 田 哲 二 ()
 森 井 智 江 ()
 東海林 道 夫 (滝川東小)
 齊 藤 洋 子 (滝川東榮小)
 岩 橋 洋 子 (滝川江部乙小)
 尾 山 義 昭 ()
 藤 井 邦 子 (滝川江陵中)
 三 宅 敬 (滝川明苑中)
 北 村 稔 ()
 西 田 知 子 (滝川開西中)

＝ 滝 川 市 立 東 小 学 校 職 員 ＝

早 弓 弘 行 山 片 敬 子
 佐 藤 孝 宮 田 孝 雄
 関 豊 渡 辺 強
 小 森 政 敏 四十九院 正清
 荒 生 卓 也 貝 田 公 博
 東海林 道 夫 広 川 佳 代 子
 西 山 孝 子 羽 田 美 津 子
 速 藤 均 北 崎 英 男
 中 村 孟 秋 元 和 枝
 大 西 芳 弘 原 田 真 由 美
 上 田 祝 子 福 島 操
 河 内 良 次 小 林 美 惠 子
 小 川 幸 彦 堀 田 智 惠 子
 東 淳 一 田 中 肇
 小 黒 善 富 浦 上 敦 美

研 究 紀 要

第38回全道造形教育研究大会
第25回全空知子どもの作品を語る会

発 行 日 昭和63年7月

発 行 空知美術教育研究会

発行責任者 早 弓 弘 行

印刷・製本 ㈱ アイワタイプ

滝川市北滝の川1198-4

電話 (0125) 22-4047



38

